

# ふれあいねっと便り

編集・発行：ふれあいねっと会議

2021年3月15日 第4号

## みんなでつくる助け合いの地域づくり

松川村では、「ふれあいねっと会議」と「生活支援コーディネーター」が協働して、支え合いの地域づくりを目指して3年が経過しました。新型コロナウイルス感染症の影響を受けている現状ですが、「ふれあいねっと便り-第4号」として、現在の活動状況や地域の情報をお届けしてまいります。“日常生活の困りごと”は、“ちょっとした手助け”で解決できることがたくさんあります。助け上手、助けられ上手の地域社会を、みんなで推進していきましょう。

○今回紹介の各活動は、新型コロナウイルス感染症対策を十分にとったうえで行われています。

### ふれあいねっと会議の活動状況

令和2年12月11日、ふれあいねっと会議を開催しました。今までの振り返りと現状の把握、今後の活動目標などについて意見交換を行い、現在取り組んでいる、①助け合い体験ゲーム、②地域の宝物マップ作成、③ふれあいねっと便りの発行に加え、「④新しい助け合いの仕組みづくり」部会が立ち上がりました。新部会では、高齢者の生活をより身近で応援できる助け合いの仕組みを考え、話し合い、実践に向けて進めてまいります。今後、4つの部会で、社会状況を見極めながら一層の検討を重ねていくことも確認し、みんなでつくる助け合いの地域づくりを応援していきます。



### ふれあいねっと会議情報-1

#### 地域の宝ものマップ作成のご紹介



村内には、気軽に集まってお茶飲み話をしたり、趣味を楽しむサークルなど“集いの場”がたくさんあります。このような場所を皆さんにお伝えするため、「地域の宝ものマップ」を作成しています。日々を心豊かに元気で過ごすには、楽しみや人とのつながりを持つことが大切です。自分に合った集いの場探しに活用いただけるよう作成を進めています。

皆さんがご存じの“地域の集いの場”や“ちょっとした立ち寄り場”などがありましたら、ぜひ事務局へお知らせください。



●裏面に続きます

●お問合せは…ふれあいねっと会議事務局

松川村役場福祉課 松川村地域包括支援センター Tel. 0261-62-3290 Fax. 0261-62-1030



高齢者が住み慣れた地域で暮らしていくためには、どのような困りごとあり、どのような事が必要なのでしょうか。ゴミ出しやストーブの給油、お薬の飲み忘れ防止の見守り、たまには誰かと話がしたい、元気だけど一人暮らしなので何かあった時に相談できる人がいたら…。など、ちょっとした日常の困りごとは、誰か少し手を貸してもらえたらとても安心です。今後の人口減少、高齢化の問題。また、認知症者の増加が心配のなか、このような時に気楽に頼むことができ、お互いに助け合える仕組みがあれば、みんなが安心して住み慣れた地域で暮らし続けていくことができると考えます。人と人をつなぐ助け合いのネットワークで高齢者の生活を応援できるよう、松川村に合った仕組みづくりに向けて具体的な話し合いを進めています。

### 地域の活動紹介－1

#### 南神戸「にこにこ会」(代表：溝口千代子さん)

南神戸の仲間が集まるこの会は、毎年秋に家で作ったジャガイモや、玉ねぎなどを持ち寄り、みんなでたくさんのコロッケ(カレー味)の下ごしらえを行っています。形を整えたコロッケは、分けて持ち帰り、家で揚げてから冷凍保存しておき、食べる時にオーブントースターで焼くとおいしく食べられるとのこと。この日は10名が集まり、310個を仕上げました。参加者は、「家で料理すると面倒なコロッケも、ここで一緒につくると楽しくできて苦にならない。おかずに困るときもコロッケがあると大助かり」とのことでした。「にこにこ会」ではこの他、ひな祭り会や外食会なども溝口さんが企画されています。溝口さんは、「みんなが楽しみを持って、元気に暮らせることが一番。これからもみんなが楽しめることを続けて行きたい」と話されていました。



### 地域の活動紹介－2

#### 「まちの縁側講座 in 松川村」

令和2年12月1日、すずの音ホールにて、第14回地区ふれあいサミットが開催されました。今回は、松川村社会福祉協議会主催、大町保健福祉事務所、長野県長寿社会開発センター、長野県社会福祉協議会の共催で研修会が行われました。「まちの縁側講座 in 松川村」と題して「まちの縁側」を発見するため『東松川～緑町区』と『中部区』のそれぞれのコースを参加者が歩いて巡りました。「まちの縁側」とは、隣近所の住民同士が気楽に集い交流できる場所のこと。このまち歩きで緑町中区にある、「浜ちゃんの陶芸工房(中山浜江さん)」を訪れました。

中山さんは、「陶芸を始めて世界が広がり、陶芸や作品を通して多くの人と会えることが楽しい。創作する喜び以上に作品を手にとった人の笑顔が何より嬉しい」とのこと。「何でもつくってみよう」というチャレンジ精神から、多彩な作品が並べられていて見るだけでも楽しめる場所です。工房では教室も開いていて、誰でも陶芸やお茶を楽しむことができます。中山さんは「皆さんおしゃべりに来てください」とおっしゃっていました(毎週、水曜日の午後、開けています。お問合せは中山さん、電話 62-3006 まで)。

まちの縁側を探索した後は、すずの音ホールに戻り、参加者がそれぞれ訪れた集いの場所を紹介し合い、改めて村内には「まちの縁側」となる場所がたくさんあることを感じました。



村内を歩きながら、まちの縁側を探索中の出席メンバー



上：制作中の中山浜江さん

下：作品がたくさん並ぶ、浜ちゃんの陶芸工房